



口絵 16. 神宮（堀部友一蔵 明治期）



口絵 15. 梅ヶ谷関（堀部友一蔵 明治期）



口絵 18. 上町の凱旋門（堀部友一蔵 明治期）



口絵 17. 馬に御幣（堀部友一蔵 明治期）



口絵 20. 宝船 (堀部友一蔵 明治期)



口絵 19. 狛犬 (堀部友一蔵 明治期)



口絵 22. 唐獅子 (堀部友一蔵 明治期)



口絵 21. 日の出に鶴 (堀部友一蔵 明治期)



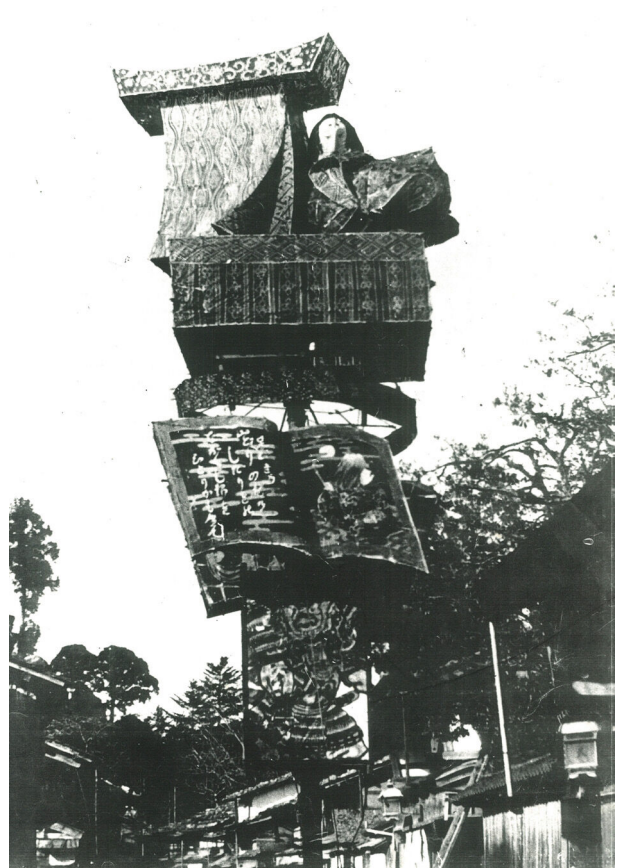
口絵 24. 灯籠 (堀部友一蔵 明治期)



口絵 23. 四斗樽 (堀部友一蔵 明治期)



口絵 26. 上町の桃太郎 (浦町個人蔵 昭和 30 年頃)



口絵 25. 浦町の三十六歌仙 (堀部友一蔵 明治期)



口絵 28. 御蔵町の花籠（昭和 27 年）



口絵 27. 御蔵町の弁慶（昭和 25 年）



口絵 30. 御蔵町の鯉の滝登り（昭和 37 年）



口絵 29. 御蔵町の花籠（昭和 29 年）



口絵 32. 新町の神輿 (昭和 48 年)



口絵 31. 浦町の花車 (昭和 43 年)



口絵 34. 上町の桃太郎 (昭和 49 年)



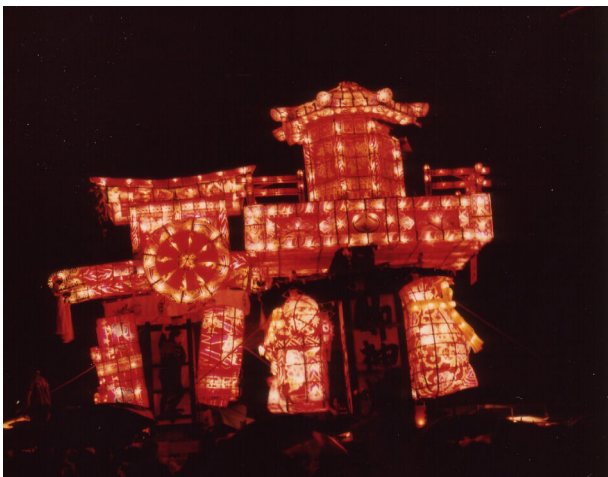
口絵 33. 七津屋の代行燈 (昭和 48 年)



口絵 36. 御蔵町の花籠（昭和 50 年以前）



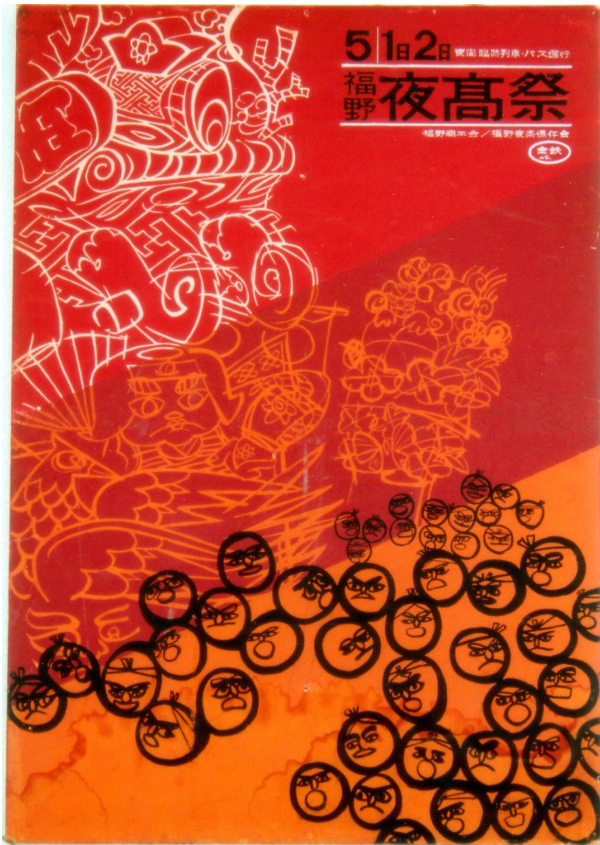
口絵 35. 七津屋の屋形船（S48 東京にて）



口絵 38. 左：浦町、右：辰巳町（昭和 58 年）



口絵 37. 上町の桃太郎（昭和 50 年）



口絵 40. 過去の福野夜高祭ポスター



口絵 39. 過去の福野夜高祭ポスター



口絵 42. 過去の福野夜高祭ポスター



口絵 41. 過去の福野夜高祭ポスター

序にかえて

福野夜高曳山行事は、南砺市福野で継承されてきた福野神明社の春季祭礼です。およそ江戸時代の中頃に成立し、数百年の時を経て、地域住民の生活と深く結びつき、独自の文化として発展してきました。

毎年五月一日には宵祭、二日目は例祭が行われ、夕方より深夜まで夜高行燈の練り廻しが行われます。七つの町がそれぞれ特色ある行燈を製作・披露し、高御座・屋形船・花車・御所車・宝船・大黒・御輿をかたどった山車などで構成された行燈が夜空に浮き出され夜の街を色鮮やかに色どります。特に、二日の深夜に行われる引き合い（ケンカ）は祭りの目玉として見る者を釘付けにします。

三日には神輿渡御にあわせて、曳山・庵屋台の巡行が行われます。曳山・庵屋台は戦後に中断していた時期がありました。町の方々の尽力により順次復活し、夜高行燈とはまったく違った華やかさで祭りに趣きを添えます。

本調査は、この夜高曳山行事の歴史の変遷、祭礼構造、行燈製作技術、そして地域社会における役割を多角的に掘り下げ、その全貌を明らかにすることを目的としたものです。これまでにも行燈のみ、曳山のみを対象とした部分的な調査は行われていましたが、今回は祭礼の全容を初めてまとめることができました。

本報告書が、福野夜高曳山行事の価値を再認識し、その継承に向けた活動を活性化させる一助となることを願ってやみません。

最後に、この調査にご指導ご尽力を賜りました「福野夜高祭保存協議会」をはじめとする関係の皆さまに深く感謝申し上げます。

令和八年三月

南砺市長 田中 幹夫

刊行によせて

桜の花が散り、田植えが始まる薫風の候、富山は祭りの季節を迎えます。砺波市出町の曳山を皮切りに、小矢部市石動、高岡市山町筋、富山市八尾、南砺市城端、高岡市伏木、富山市岩瀬と県内各地で地域の安寧や豊作を願う祭りが続きます。福野の夜高曳山行事もまた、福野神明社の春の例祭に合わせてこの季節に行われ、行燈や曳山、庵屋台など多彩な作り物が巡行します。

このたび、この行事をめぐる歴史や民俗、現在の様子などを詳細に記録した報告書が刊行されました。誠に喜ばしいことです。微力ながら私も調査に携わらせていただき、文化庁や富山県の指導・助言を受けながらその文化財的な位置付けを試みました。調査にあたり、多大なる御理解・御尽力を賜った福野夜高祭保存協議会の皆様、各町内の方々、事務局や調査委員・調査員の先生方に厚く御礼申し上げます。

報告書の刊行は一つの区切りですが、同時に新たなスタートでもあります。この行事は、福野の歴史そのものといつてよく、福野の皆様の暮らし、人生の一部です。報告書は、今後も行事を継続し、次世代に継承していく礎となるべきものです。行事に関わる皆様がこの行事を今まで以上に愛し、この行事から明日への活力を得られることを祈念いたしました。刊行によせた挨拶に替えさせていただきます。

末筆ながら、本事業に先鞭をつけられた故・植木行宣先生に改めて感謝申し上げますとともに、故人のご冥福を心よりお祈りいたします。

令和八年三月

南砺市福野夜高曳山行事総合調査委員会 委員長 石垣 悟

目次

口絵

序にかえて・刊行によせて

目次・例言

第一章 福野の夜高・曳山行事の概要

第一節	はじめに 山・鉾・屋台行事と富山県	10
第二節	福野の夜高・曳山行事	10
第一項	福野の町の成り立ち	10
第二項	福野の夜高・曳山行事の始まり	12
第三項	福野の夜高・曳山行事の概要	13
第四項	行燈の概要と歴史	19
第五項	曳山の概要と歴史	24
第六項	庵屋台の概要と歴史	25
第七項	行燈、曳山、庵屋台と町内の性格	25
第三節	富山県の山・鉾・屋台行事と福野の夜高・曳山行事	29
第一項	富山県の山・鉾・屋台と植木分類	29
第二項	花山型の曳山と福野の曳山	31
第三項	花山型以外の曳山と福野の曳山	37
第四項	庵屋台の役割とその分布	42
第五項	特異な船鉾型の曳山	44
第四節	ヨータカ／田祭りで行燈く風流化と伝播く	45
第一項	富山県の燈籠山	45
第二項	燈籠山としてのヨータカ／田祭り	47

第二章 福野町と夜高曳山行事の歴史

第三項	ヨータカ／田祭りから夜高祭へ	49
第四項	傘鉾としての行燈の成立	51
第五項	夜高の伝播	53
第五節	引き合い（喧嘩）の伝播と破壊／解体の意義	56
第六節	行事の構成からみえる傘鉾の意義	57
第一節	地勢・地形	62
第二節	福野地域の歴史	62
第三節	福野神明社五月祭礼の歴史	65
第四節	福野神明社五月祭礼関連資料の概要	72
第一項	上町・七津屋所蔵資料	72
第二項	横町所蔵資料	73
第三項	浦町所蔵資料	73
第四項	南砺市立福野図書館所蔵資料	74
第五項	絵葉書	74

第三章 福野神明社と神社関係の行事

第一節	福野神明社について	76
第一項	福野神明社の歴史	76
第二項	福野神明社の社宝	77
第三項	境内末社	78
第二節	福野神明社にかかる祭礼	79
第一項	安全祈願祭	79
第二項	シャンシャンの練習	80

第三項	献燈式	80
第四項	中行燈以下の参拝	81
第五項	春の例祭	82
第六項	曳山出発式	82
第七項	発興祭と神輿巡幸	84
第八項	還幸後鎮祭	85
第三節	福野神明社関係の役職と氏子組織	85
第四章 夜高行事		
第一節	夜高行事の現状	88
第一項	夜高行事の概要	88
第二節	福野夜高保存会	96
第一項	福野夜高保存会の概要	96
第三節	福野夜高祭連絡協議会	100
第一項	福野夜高祭連絡協議会の概要	100
第四節	当番裁許	104
第一項	当番裁許の概要	104
第二項	当番裁許の主な役割	104
第三項	会合・年間スケジュール	104
第四項	夜高行事	105
第五節	各町の組織と行事	110
第一項	上町	110
第二項	七津屋	121
第三項	新町	133
第四項	浦町	144

第五項	辰巳町	155
第六項	横町	169
第七項	御蔵町	181
第五章 曳山行事		
第一節	曳山行事の現状	196
第一項	福野曳山の概要	196
第二項	曳山行事の次第	197
第二節	福野曳山保存振興会	199
第一項	概要	199
第二項	役割	199
第三項	運営の概要	199
第三節	各町の組織と行事	200
第一項	上町・七津屋	200
第二項	新町	205
第三項	浦町・辰巳町	209
第四項	横町	215
第六章 夜高行燈と曳山の構造		
第一節	夜高行燈の構造	222
第一項	夜高行燈各部と用具の概説	222
第二項	各町の夜高行燈	225
第二節	曳山の構造	227
第一項	曳山各部と用具の概説	227
第二項	各町の曳山	231

第三節 庵屋台の構造	238
第一項 庵屋台各部と用具の概説	238
第二項 上町・七津屋の庵屋台	242

第七章 お囃子

第一節 福野夜高曳山行事の音空間	244
第一項 五月一日(宵祭り)	244
第二項 五月二日(例祭)	245
第三項 五月三日(神輿渡御)	246
第二節 夜高太鼓	247
第一項 行燈練り廻しと夜高太鼓	247
第二項 夜高太鼓の歴史と変容	247
第三項 楽器(太鼓、笛)と編成	250
第四項 夜高太鼓の音楽構造	250
第五項 継承	253
第三節 夜高節	260
第一項 夜高節と行燈練り廻し	260
第二項 夜高節の旋律と歌い分け	261
第三項 歌詞	262
第四項 夜高節の継承・拡がり	270
第四節 庵唄	272
第一項 屋台囃子、屋台唄の中断と庵唄としての復活	272
第二項 現在の屋台囃子・庵唄と福野庵唄保存会	273
第三項 屋台囃子・庵唄の変遷	275

第八章 夜高曳山行事の保存と継承

第一節 夜高行燈作成の材料の調達先の変化	292
第二節 夜高行燈のLED化への流れ	294
第三節 祭りに携わる人々の変化	295
第四節 南砺市合併後の変化	295
第一項 南砺市と夜高曳山行事との関係	295
第二項 コロナ禍中の練り廻し中止からの復興	296
第三項 福野夜高祭保存協議会の成立	298

引用・参考文献

補足資料

福野夜高曳山行事関係年表

付録(CD)

- 文献史料翻刻(附 史料画像)
- 夜高節歌詞・庵唄資料(附 短冊・色紙画像)
- 夜高行燈コンクールの記録
- 行燈・曳山・屋台実測図

例言

一、本書は、南砺市文化・世界遺産課が令和四年度から令和七年度に実施した「福野夜高曳山行事」の総合調査報告書である。

二、本調査および調査報告書の刊行は、国庫補助金および富山県補助金の交付を受けて実施した。

三、本調査は、南砺市文化・世界遺産課が主体となり「福野夜高曳山行事総合調査委員会（事務局南砺市文化・世界遺産課）」および文化庁、富山県教育委員会の指導助言を受けて実施した。調査の実施体制は左記のとおりである。

福野夜高曳山行事総合調査委員会

顧問 植木 行宣（全国山・鉾・屋台行事保存連合会顧問）

※令和六年一二月逝去

委員長 石垣 悟（國學院大學・観光まちづくり学部准教授）

副委員長 鈴木 景二（富山大学学術研究部人文科学系 教授）

委員 大氏 正嗣（富山大学芸術文化学部 教授）

※令和七年四月逝去

委員 伊野 義博（新潟大学名誉教授）

委員 加藤 享子（富山民俗の会）

委員 三田村 佳子（前埼玉県立歴史と民俗の博物館学芸員）

委員 安力川 恵子（富山民俗の会 南砺市文化財保護審議

会委員）

委員 往蔵 久雄（元南砺市文化財保護審議会委員）

委員 河合 秀和（福野夜高保存会事務局）

委員 直井 洋一（福野夜高祭連絡協議会）

委員 藤崎 靖志（令和七年福野夜高祭保存協議会事務局長）

委員 畠中 俊夫（令和四年福野夜高祭連絡協議会事務局長）

委員 森田 正人（令和五・六年福野夜高祭連絡協議会事務局

長）

調査員 浦辻 一成（富山民俗の会 南砺市文化財保護審議会

委員）

調査員 川波 久志（松江市役所文化スポーツ部文化財課文化

財主任）

調査員 東出 紘明（砺波郷土資料館学芸員）

調査員 福島 千尋（市川市立歴史博物館学芸員）

調査員 森 悦子（元調布市郷土博物館学芸員）

調査員 渡部 圭一（筑波大学人文社会系 准教授）

調査補助 西野 由希子

調査補助 西野 名津子

調査補助 堀江 俊郎

調査補助 向井 歌音

事務局

南砺市ブランド戦略部文化・世界遺産課

課長 上野 容男（令和四・五年度）

平本 光一（令和六年度）

野村 信晴（令和七年度）

世界遺産・文化財係

係長 佐藤 聖子（令和四年度）

主幹 宮崎 順一郎（令和四年度、令和五年度から係長）

主査 浅野 克典（令和五・六年度）

主事 大楠 晋也（令和七年度）

四、本書の執筆は、福野夜高曳山行事総合調査委員に依頼して行い、編集は事務局（南砺市文化・世界遺産課）が行った。

執筆分担は左記の通りである。左記部分以外の執筆は、事務局が行った。

石垣 悟（第一章、第三章、第六章）

鈴木 景二（第二章）

伊野 義博（第七章）

加藤 享子（第四章二節・五節七項）

安力川 恵子（第四章一節・四節・五節四項、第五章一節・二節・三節三項）

三節三項）

森田 正人（第四章三節）

堀江 俊郎・渡部 圭一（第四章五節五項）

五、本書に掲載した写真・挿図・野表は、章ごとに通し番号を付した。

六、本書に掲載した写真および資料のうち、外部機関等より提供を受けたものについては、それぞれの掲載箇所所蔵・提供元をあわせて表示した。その他の写真資料については、断りの無い限り各執筆担当者

および行事記録作成の際に撮影した写真を使用した。

七、「行燈（アンドン）」、「田楽（レンガク）」など、一般的な用法とは異なる用語については、章の初出に（ ）内にカタカナ表記を入れる形式を取った。また、祭りの名称は「夜高祭」であるが、そこで曳き廻すものは「夜高（ヨタカ）」ではなく「行燈（アンドン）」であり、町内の一般的な呼称に基づいて「行燈」で表記を統一している。一方で、「曳山」は古い記録では「曳軸」と表記されることが多いが、本報告書では「曳山」で統一して表記している。

八、年号は日本年号を用い、年号の後に（ ）で西暦年号を併記した。ただし、初出以外の同年号については、特に必要がない限り省略した。

九、令和六年（二〇二四）二月二一日、それまで福野夜高曳山行事の運営を担ってきた福野夜高祭連絡協議会と福野夜高保存会が統合し、福野夜高祭保存協議会が発足した。ただし、本調査は主に福野夜高祭保存協議会発足前に行われたものであるため、報告書の内容は原則として「福野夜高祭連絡協議会と福野夜高保存会が統合する前の状態」について記述している。福野夜高祭連絡協議会と福野夜高保存会の統合については、第四章第二・三節および第八章第四節を参照されたい。

一〇、調査記録及び資料等は、南砺市文化・世界遺産課が保管している。

